

TAD Letter | 09



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティク》2019 詩人と画家の出会い交流 創造

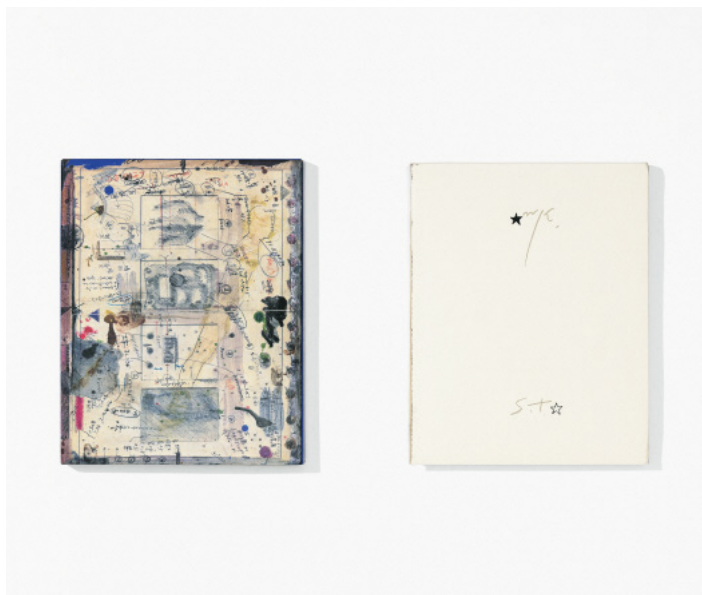
2019年11月1日(金)～12月25日(水) 前期 11月1日(金)～11月26日(火) 後期 11月28日(木)～12月25日(水)

美術評論の分野でも活躍した富山県出身の詩人、瀧口修造と、1950年代から独創的な版画作品により国内外で評価されてきた、戦後を代表する美術家、加納光於の展覧会。共同制作作品や、交流を示す資料を合わせて展示し、強く共鳴しあった二人の精神と創造に光を当てます。今回のTAD LETTERでは、二人の交流を示す作品や資料、また主要作品を紹介します。

| 主要作品紹介 |



見どころ



01 加納光於『《稲妻捕り》Elements』1978年

01

瀧口修造と加納光於は、1953年の出会い以降、四半世紀に渡る交流を続け、瀧口の最晩年に2つの詩画集『《稲妻捕り》Elements』(1978年)、『《掌中破片》』(1979年)を共作しました。なかでも『《稲妻捕り》Elements』は、加納のリトグラフ集『稲妻捕り』(1977年)から展開して成立した詩画集で、加納の同名のエンコスティック(蜜蝋を使った技法)作品と、瀧口が加納の作品に触発されて記した詩作品が組み合わされた、先に例を見ない形式になっています。本展覧会には、加納のリトグラフ作品、エンコスティック作品、瀧口自筆の詩編、そしてその下書きなど、詩画集をめぐる貴重な作品・資料が一堂に集結しており、詩人(瀧口)と画家(加納)の創造的な交流の一端を垣間見ることが出来ます。

02

加納光於《鳥人》1956年 北九州市立美術館蔵

瀧口修造が人選を任されていた、今はなきタケミヤ画廊で開催された加納の初個展出品作。1959年頃から加納の作品は、腐蝕液による偶然的腐食作用を生かした抽象的な作風に移行していきますが、それ以前は植物や虫、鳥などの生命体を思わせるモチーフが見られます。

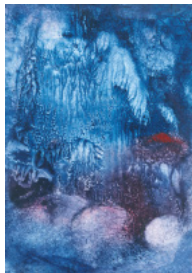


02

03

瀧口修造《私の心臓は時を刻む》100点より 1962年 富山県美術館蔵

瀧口修造は1960年頃から評論の執筆から遠ざかり、いわゆる「造形的実験」と称される造形作品の制作に没頭していきました。絵具を紙の間に圧着させる「デカルコマニー」の技法を用いた小品100点からなる本作は、瀧口による造形的実験の紛れもない代表作です。



03

04

加納光於《リバティ・パスポート》1967年 個人蔵（加納光於旧蔵）

瀧口は渡航を控えた友人たちに、「リバティ・パスポート」と命名したお守り風の手帳を自作して贈っていました。本作は、ジャパソサエティの招待による海外滞在を控えていた加納に贈られたパスポートであり、中面には瀧口によるドローイングや、加納が張り付けた工藤哲己の作品の一部などが含まれています。



04



開館時間 9:30-18:00（入館は17:30まで）
休館日 毎週水曜日、祝日の翌日、ただし12月25日（水）は開館。
会場 富山県美術館 展示室3、4
主催 富山県美術館、北日本新聞社、富山テレビ放送
観覧料 一般 900(700)円、大学生 450(350)円、高校生以下無料
※（）内は20名以上の団体料金

開催概要

※ 詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

関連イベント

01

林浩平氏
講演会

日時 2019年12月7日（土）14:00-（約90分）
会場 3階ホール（定員約100名、先着順）
料金 無料

02

学芸員による
ギャラリー・トーク

日時 2019年11月9日（土）、16日（土）、23日（土）、30日（土）
12月14日（土）、21日（土） 各日14:00-（約30分）
会場 展示室3・4（要当日有効の企画展チケット）※会場入り口にお集まりください。

コレクションテーマ展示

2019年10月31日(木) - 2020年1月7日(火)



棟方志功《二菩薩釈迦十大弟子》1939 (左隻)

TADの収蔵作品をテーマ毎に展示するコレクション展。第Ⅲ期となる本展は、同時期に開催する企画展【瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティク》2019】に関連して、日本の版画を数多く取り上げます。本展は、【1. 内なる物語】【2. ひと・人・ヒト】【3. 共振、色と光】【4. 行為と痕跡】、の4つのテーマに着目しながら、国内外の絵画作品を中心にご紹介します。

版画作品の見どころは、日本を代表する版画家の棟方志功《二菩薩釈迦十大弟子》。本作は棟方が興福寺の須菩薩像に強い感銘を受け制作されました。等身大の版木を使用しており、高さは90cm以上にも及びます。また、銅版画技術であるカラーメゾチ

ントの開拓者ともいえる浜口陽三の版画集「カラーメゾチント」や、浜口の妻である富山県射水郡出身の南桂子による、小品にみる物語世界の広がりには必見です。他にも、長谷川潔や駒井哲郎など、名立たる版画家の作品がお目見えします。

そして、展示の後半は、幅8mを超えるサム・フランシスの三幅対両面開きの大型絵画作品や、絵具を何層にもキャンバス地に染み込ませ、独特の色彩を大画面で見せるモーリス・ルイス《DALET SHIN》など、作家が全身を使って画面に挑んだ大作が必見です。作品の持つ大小様々なスケール感や、作家毎に異なる世界観をお楽しみください。

開催概要

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休 館 日 毎週水曜日、祝日の翌日、ただし12月25日(水)は開館
年末年始
会 場 富山県美術館 展示室2
観 覧 料 一般 300 (240) 円、大学生、70歳以上、高校生以下無料
※ () 内は20名以上の団体料金

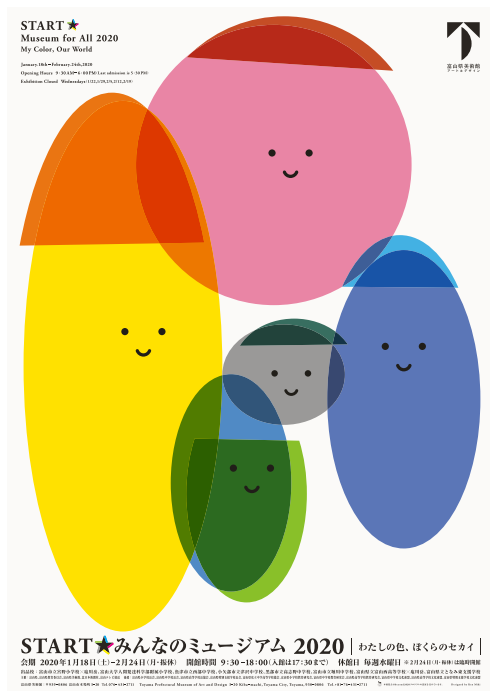
START★みんなのミュージアム2020 わたしの色、ぼくらのセカイ

2020年1月18日(土) - 2月24日(月・振休)

学校(School)×富山(Toyama)×アート(ART) = "START"。本展は、富山県内の小・中・高・特別支援学校の協力のもと、子どもたちが主役(STAR☆)の展覧会の第3回展です。今回は、現代美術作家の塩川岳さんを招待し、「わたしの色、ぼくらのセカイ」をテーマに、富山県内の小・中・高・特別支援学校のみなさんが制作した作品を展示します。学校と塩川さんとのコラボレーション作品など8つの出品校が制作した作品は、展示室3および4を会場に紹介します。また、夏から秋にかけて開催したプレワークショップ等の完成作品や、展示期間中に遊んで参加できる、楽しい創作・体験コーナー、そして初日の「キラキラ富山城をつくろう(仮)」など、塩川さんに企画していただいた各ワークショップの作品は、展示室2を会場に展示します。子どもも大人もみんながつくって遊んで参加して、アートを気軽に体感できるしかけをたくさん用意します。どうぞお楽しみに!

※アニメーション上映会等、会期中のイベントについては、
詳細が決まり次第ご案内しますので、ウェブサイトをご覧ください。

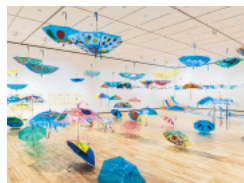
出品校 富山市立宮野小学校×塩川岳
富山大学人間発達科学部附属小学校
魚津市立西部中学校
小矢部市立津沢中学校
黒部市立高志野中学校
富山市立堀川中学校
富山県立富山西高等学校×塩川岳
富山県立となみ東支援学校



ポスター Design: 三木 健



前回展の様子



開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日

会場 富山県美術館 展示室2、3、4 ※展示室2は無料です

主催 富山県、富山県教育委員会、富山県美術館、北日本新聞社、富山テレビ放送

後援 富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会、
富山県特別支援学校長会、富山県私立中学高等学校協会、富山県小学校教育研究会、
富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県中学校文化連盟、
富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟

観覧料 一般 500(400)円、大学生 250(200)円、高校生以下無料

※①内は20名以上の団体料金

開催概要

「びじゅチューン!ライブ in 富山」開催

「びじゅチューン!×TADなりきり美術館」の関連として9月23日(月・祝)にライブを開催。11時からと14時から2回、会場や立ち見スペース、2階ホワイエでの視聴に、たくさんの方に来ていただきました。井上涼さんは、会場外から歌いながら登場。美術作品についてのトークなどを交えながら、次々

と「びじゅチューン!」の歌を披露。途中、クイズを出したり、リクエストを聞いたり、ハイタッチをしながら歌ったりと、お客様も交えてのライブに会場も会場外也大盛り上がり。最後は2階のホワイエにサプライズ登場し、そこでも歌を披露していただきました。



当日の会場の様子



ホワイエにサプライズ登場

佐藤卓氏スペシャルトーク

講師 佐藤卓氏 (グラフィックデザイナー)
日時 2019年10月6日(日) 14:00-15:30
参加人数 93名

「日本の美 美術×デザイン」展のスペシャルトークとして、日本を代表するグラフィックデザイナーの佐藤卓氏が「繋ぐデザイン」と題した講演を行いました。最初に、アートとデザインの境目についてずっと考えてきた中で、デザインと関係ないものはない、という思いに至ったこと、「日本の美」展の出品作品について、現代のプロダクトデザインに置き換えれば、屏風や筆筒、狂言衣装などまさにデザインであるとお話いただきました。後半は、富山

県美術館で開催された「デザイン『あ』」展や、オノマトペの屋上、東京で開催している虫についての企画展など、ご自身の活動についても熱く語られ、聴講者にとって、デザインという考えに広がりが出るトークとなりました。



当日の会場の様子

— 01 —
平日

参加 無料

だれでもポップアーティスト！
～もようでつくる「かお」～

開催日 2019年10月1日(火)～
2020年2月21日(金)の平日
活動時間 10:00～16:00
会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)



— 02 —
土日祝

参加 無料

えのぐをはさんで・ひろげて・デカルコマニ－

開催日 2019年10月22日(火・祝)～
12月22日(日)の土・日・祝
活動時間 10:00～12:00、14:00～16:00
会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)



イベント案内

開催概要

EVENT
01

林浩平氏講演会

詩人の林浩平氏による「詩人 加納光於一稲妻捕りの詩学」
と題した講演会を行います。

日時 2019年12月7日(土) 14:00～(約90分)
会場 富山県美術館3階ホール
定員 100名(当日先着順)
料金 無料

EVENT
02

アーティスト@TAD 蓮沼昌宏「物語の、準備に、備える」

国内外で活躍するアーティストを富山県美術館に招き、滞在制作や
作品展示を行う「アーティスト@TAD」。今年度は蓮沼昌宏さんを迎え、
絵画やキノラ(アニメーション装置)等の滞在制作を行います。

オープンアトリエ

日時 2020年1月18日(土)～25日(土) 各日10:00～17:00
会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)

ワークショップ「山山山山アニメーション・ワークショップ」

日時 2020年1月19日(日)・25日(土) 各日14:00～16:00
会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)
料金 無料 ※要事前申込(電話にて受付、先着順)
対象 小学生以上(各回定員10名)

ギャラリー展示

日時 2020年3月19日(木)～5月10日(日)
9:30～18:00
会場 富山県美術館1階TADギャラリー
料金 無料



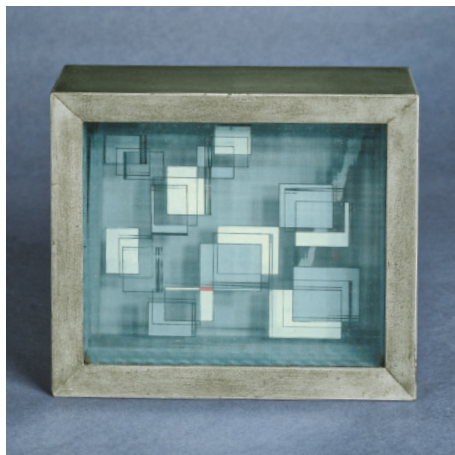
ヴィトリヌ No.1

山口 勝弘

1952年 瀧口修造コレクション

ガラス・木板・油彩

17.8×21.0×7.5



《ヴィトリヌ No.1》は、長方形の箱型で、正面はガラスがはめられており、素材は木で作られている。正面のガラス部分を覗くといくつかの長方形が描かれている。描かれている長方形は、グレーや白、枠だけが描かれているものなどがあり、それらはいくつか重ねられて形をなしているように見える。ガラスは表面が波打っていることで、物の像が歪んで見えるモールガラスが使われているため、こちらの視点を変えると、ガラスの効果によって箱の中の長方形が動いているように見える。

山口は大学を1951年に卒業し、その同年に美術家北代省三、福島秀子、音楽家秋山邦晴、湯浅譲二、武満徹らと若手作家グループ「実験工房」を結成する。実験工房には多領域の作家が集まる中で、舞台や映画、音楽と映像を組み合わせたオートスライドなどが制作、発表され、時間や空間表現の多様な試みがなされた。山口がヴィトリヌの制作を始めたのはこの時期であり、初めて公に発表され

たのは、1952年2月にタケミヤ画廊で開催された「実験工房第3回発表会」においてのことであった。ヴィトリヌは1950年代を通して継続的に制作され、本作品はこのシリーズの第1作目に当たる。《ヴィトリヌ》という作品名は、山口が詩人の瀧口修造に作品を見せた際に名付けられたと言われている。この語はフランス語でショーウィンドーや飾窓という意味がある。

また実験工房は映画『モビールとヴィトリヌ』(1954)を制作している。1954年の日劇ミュージックホールでの舞台『神の国から谷底みれば』で使用され、ダンサーの踊りと合わせて上映された。

山口の初期作品である《ヴィトリヌ》に見られる、見ることや動くことへの関心は、後にビデオを使ったパフォーマンス《ラス・メニーナス No.1》(1974)や、ビデオ・インスタレーション作品として時間と空間に展開されていくこととなる。

(学芸員 望月 由衣)

富山県美術館 (TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>